

01 「春の兆し」

国立天文台二十四節気・雑節の説明では、2月18日が雨水(説明:陽気がよくなり、雪や氷が溶けて水になり、雪が雨に変わる)とあります。今日は2月21日(日)、天気予報では曇りでしたが朝早く5時過ぎに家を出ました。陽気が良くなって樹木の冬芽は大きく膨らんできたかと期待は大きくなります。

中ノ沢集落を過ぎて裏五頭山荘を横目に峠を越える頃には道路の横にはまだ雪壁が高く、まだまだ春は遠くに感じました。グリーンハウス前に車を置いて、除雪された道路を歩きました。

その時に春の兆しを見つけました。雪の中から顔をのぞかせたのはリョウブの特色ある枝でした。

樹木図鑑(リョウブ)の説明では、「枝は、短枝の根元から長枝が伸び、シカの角のような枝振りとなる。このような枝は、terminalia branching の呼称がある。」と説明があり、写真と見比べて素敵な表現に今日の訪れの出会いがとても嬉しく感じました。



リョウブの枝と残実

R03.02.21.jpg

リョウブの「terminalia branching」がとても美しく、それでは、他の樹木で同様の表現は無いものかと調べました。

ミズキとオオカメノキ(ムシカリ)がヒットしました。オオカメノキは当日写真撮りができませんでしたがミズキは同様の写真を撮ることができました。

今度は、オオカメノキの写真を撮って、その時にこの文書の再編集をしようと思っています。



ミズキ枝先冬芽 R03.02.21AM.jpg

大きく曲がる角から、落ちない枯葉の美(枯凋性)に足を止めて写真を撮りました。枯葉もまた美しいですね。



クヌギ 枯凋性残枯葉 R03.02.21.jpg



クリノキの枯凋性枯残葉 R03.02.21.jpg

その先を行くと大木コシアブラとアズキナシがありました。樹の傍へ寄って、春はまだですかと問いかけました。アズキナシの冬芽はまだ固く、コシアブラはかなり大きくなっているようでした。



コシアブラ冬芽はかなり大きく感じました。



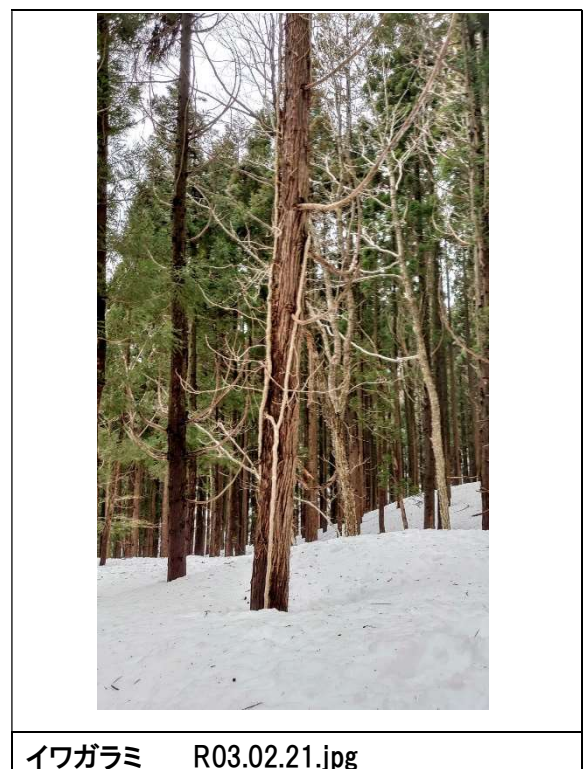
02「岩村展望台へ」

前日の土曜日(2月20日)と思われませんが、森林公園内にカンジキ歩行の跡がありました。踏み跡は、歩幅が綺麗で、私のようなあっちの樹木の芽はどうなっているのかと彷徨った歩きと違うものでした。

きっと若く体力もある歩き方で規則正しくリズムカルな足跡でした。何処まで続いているのか興味が有り、歩きやすさもあり、跡をなぞらいながら歩いて行きますと、何と菱ヶ岳登山道奥へと続いていました。

そこで、筆者も岩村展望台分岐まで足跡を辿りながらついて行って、そこから展望台へ行ってみようと思い立ちました。

菱ヶ岳登山道から分かれて右の杉林の中を行きますと、杉の樹の彼方此方に幹に沿ってまとわりついているイワガラミが目立ちました。きっと雪が溶けた春には素敵な花を咲かせることでしょう。



「岩村展望台から裏五頭の稜線を望む」

写真左側には「野須張」、中央に位置する「与平の頭」、右側「五頭本峰」から「杉峰」の稜線を指呼、その足元のスギ林は薄っすらと深緑を見せます。展望台頂上は、時折風が強く、携行したスコップを固い雪に差して安全を確保しました。春の兆しを感じる遠望でした。



岩村展望台から裏五頭 panorama R03.02.21.jpg

「岩村展望台から笠菅山を望む」

裏五頭の稜線と対面にある笠菅山をスギ樹間に見ることができました。



岩村展望台から笠菅山を望む panorama R03.02.21.jpg

そして、展望台自身にも春の兆しがありました。タムシバとコシアブラです。もうすっかり大きく膨らんでいました。



タムシバ冬芽 R03.02.21.jpg



コシアブラ冬芽 R03.02.21.jpg